

報告 1：谷口美代子（国際協力機構）

「非国家主体の政治的正統性—フィリピン・ミンダナオのモロ・イスラーム解放戦線（MILF）を事例として—」

フィリピン・ミンダナオでは、イスラーム系反政府勢力による国家からの分離独立、後に自治拡大を目指した武装闘争（停戦状態も含め）が 40 年以上にわたって継続している。この間、1996 年にフィリピン政府とモロ民族解放戦線（MNLF）との間に締結された最終和平合意の成果もふまえて設立されたムスリム・ミンダナオ自治地域政府は、不正と汚職、縁故採用による官僚組織の肥大化・非効率性などから人びとの生活状況の改善には至っていない。2014 年には同政府と MNLF から分派したモロ・イスラーム解放戦線（MILF）との間に包括的和平合意が締結されたが、いまだに MILF 主導の暫定政府、新自治政府設立のための法制化には至っていない。しかしながら、MILF は長期間にわたりその目的が達成されないながらも、いまだにその政治的正統性を維持している。

本研究は、非国家主体である MILF の政治的正統性に着目し、事実上の「国家」として一定程度機能する要因、すなわち正統性の源泉を検討することを目的としている。具体的には、MILF 設立者のハシム・サラマット前議長がどのようにイスラーム国家建設を構想し、「国家性」を獲得していったのかを示したうえで、フィリピン政府側の一貫性に欠けた和平政策に対して MILF がどのように対応し、そのことがバンサモロ社会にどのような影響を与えたかを明らかにする。さらに、アキノ III 政権下で和平合意の法制化ができなかった理由とドゥテルテ政権下での新たなアプローチ導入によるモロ社会のさらなる分断と統合の可能性をフィリピンの国家性をふまえて検証する。